

妙の光

通刊75号 復刊54号
2006年7月1日(季刊)
角田山妙光寺 発行
新潟市角田浜1056
〒953-0011
TEL 0256-77-2025

コウホネ

池や沼などに自生する水生植物で、山門の手前に広がる池の一角に群生している。初夏から夏、濃い緑で一見里芋に似た葉の中に、鮮やかな黄色で直径三cmほどの素朴な花を咲かせる。

太い根茎が白骨に似ているところから、河骨と書くのが語源だと図鑑にあった。漢方で強壮薬、婦人薬として用いられ、薬屋では川骨(センコツ)と呼ぶという。

この池は昔いまの四～五倍の面積があつて、葦が生え大きな鯉やドジョウが住むもつと自然に近いものだつた。隣の地権者の都合で一度埋めたのを、土地の一部を譲り受けた池に作り直したのだが、昔の風情には程遠い。

河骨の花に添ひ浮くゐもりかな

高浜 虚子

山の河河骨の黄ぼうとある

菊地 一雄

最期の準備

小川英爾

瀬戸内寂聴さんの書かれたもののなかにこんな話しがあつた。『多くの優しい家族に見守られ、わが家の座敷で死んでいた知人の臨終に私はたちあつたことがある。長い癌との闘病生活の終わりだつた。私は病人の手をとつて、「こんなにやさしい家族によくされて、幸せな生涯でしたね』

と言つた。それはもう聞こえていないかも知れないと思う病人に対して、私の独りごとに似たつぶやきであつた。すると病人がかつと目を開き、涙を両眼にもりあがらせ、「だから・・・こんなやさしい者たちと別れて、私一人があの世に行かねばならないのがつらいんです」

と言つた。私は握つた病人の手を取り落としそうになつた。聰明な忍耐強い病人で、病中も家族をいたわり、自分に奉仕してくれるすべての人へ感謝のことばを忘れない人であつた。浄土真宗の寺の檀徒で、毎朝、仏壇の前で名号を唱えていた。

誰も死にたくないのだとその人の死を見送つてつくづく思つた。』（『死の準備と死後の世界』大法輪閣）

死について語られることが多くなつた。最近の病院では不治の患者に対して、医者が本人に包み隠さず告知する傾向だと聞く。子供たちと別居の老夫婦で妻に先立たれて一人暮らしの夫が、医者に癌を告知され、ショックを受けて自らの命を絶つた葬儀が以前あつた。そのとき告知には十分な配慮が必要と痛感させられた。いま一般にホスピスと呼ぶ緩和ケア病棟が増えている。治る見込みの無い病人に對して積極的な治療をせず、痛みをとつて苦痛なく最期を迎える施設のことだ。見舞いなどでその幾つかを見たことがあるが、ここなら自分でも入りたいと思う所、ここはどうもと思う所があつた。その最終的な理想はやはり、自宅で家族と過ごして迎える最期だと思う。

以前に新潟県内のホスピスで患者を支援するボランティア団体から講演を頼まれ、恥ずかしい話をしてることがある。意外にも先日「好評だつたのでまた一回目を」と言われたが、その後の経験も少なく、頭で考えただけの話しさしくないので先に延ばしていただいた。私自身、死は怖いしなかなか現実感をもつて考えることは正直難しい。

先の本で瀬戸内寂聴さんは『私は出家以前から、あまり死が怖くなかった。これはもう生まれつきの性格によるものだとしか思えない。幽霊は人並みに怖いし、人間の体が傷つけられたり殺される場面は、たとえそれが映画やテレビの場面でもこの年になつてさえ怖くて逃げだすのだ。・・・それなのに自分の死はどう考えても恐怖をともなわない。なぜかわからない。』と書いている。妻のなぎさも、死に対する恐怖感はないという。なかなか肝が座つている。あるときそんな話しが出て、「奥さんと住職を交代したいいんじやないの」と檀徒の方に言われた。

自分の死の受け止め方はひとり一人違う。男性のAさんは

五年前に胃がんの手術を受けた。以来再発の不安を抱きながら人一倍運動を続け、健康に気をつけ夫婦二人で飲食店を続けてきた。しかし一方で、ときとして恐怖心があつたのだろう、妻が心配するほど酒を飲み、定期健診も途絶えることがしばしばだつた。

かくして五年後、肺にかなり進行した状態で転移が見つかり、手の施しようがなかつた。妻は医者に告知はしないで欲しいと伝え、夫には「一緒に頑張ろう」と励まし、自身も看病と店の仕事を寝ずに勤めた。

しかし病状は悪くなる一方で、Aさんは医者に「この薬で治るのか?」と問い合わせ、「これが効かなければ別の薬にします」というむなしいやりとりが続くなかで、最期を迎えてしまつた。六十六歳だつた。「苦しむ本人に

本当のことは言えず、私は朝の四時から店の仕込をして、熱が出たと連絡を受けては病院に走り、父ちゃん頑張ろうと口では言うものの・・・本当に辛かつた」と語り、葬儀の場で憔悴しきつた妻の姿が印象的だつた。

同じころ、三年前に肝臓癌を告知された女性のBさんが、六十九才で逝かれた。この間入退院を繰り返しつつも、徐々に弱つていく姿に家族も近所の人たちも心を痛めていた。「若いころは忙しいばかりだつたけど、この歳になつてようやくお寺参りができる余裕ができて喜んでいたのに、それも叶わないのが寂しい」そんな本人の言葉が私の耳にも届いた。

亡くなつたという知らせでお宅に伺い、葬儀の打ち合わせの席で家族からこんな話を聞かされた。「イヤー、婆ちゃんは葬式のことを自分で決めていつたよ。葬式の知らせをする人の名簿を全部指示したんだ。それと式場はお寺の本堂がいい、御前様に頼んでくれ。さらにもうひとつ、病院から（遺体で）家に戻つたら、寝かせてもらいたい布団を用意してある、って言つたんだ。どこにあるんだつて聞いたら、土蔵の中に嫁に来たとき持つてきた布団があつて、あれの綿を打ち直してポンポンにしてあるから、それを頼むつて。今にして思えば、ここまで準備してもらって家族としてはホントありがたい」と。

この話しには後日談がある。「そんないい布団を死んだ人に使うなんて、もつたひないんじやないの」と言う声が、

本気か冗談かわからないが親戚からあつたという。「でも、本人の意向だから」で、家族はかわすことができ、事なきを得た。

以前に読んだ本に、ある医者の研究を紹介する話があつた。細部は忘れたが、人に不治の病を告知すると次の過程を経て、最後は必ず自分の死を受け入れられという。告知をされた患者はまずショックを受けて落ち込む。次に何かの間違いだ、医者の誤診だと事実を受け止めようとしない。やがて間違いないと事実を受け止めると、次は奇跡を願い、治してくれたら寄付をするといった具合に、神仏と取引をしようとする。そしてそれも叶わないとわかつたときに、自身の死を受け入れることができるようになるのだそうだ。

問題はここまでに到達する時間に個人差があつて、若いときから人のために苦労してきた人生だった人と、信仰心を持つ人、ことに女性は一般的に早い。ところが地位や名譽にこだわる傾向の人、人の裏をかくような職業に着いてきた人（例えば、は省略する）、一般的には男性が時間がかかり、死を受け入れる気持ちにいたる前に現実の死を迎ってしまう例もある、とあつた。これを読んだのは随分前のことだ、時代とともに人の心も変り必ずしも正しいとは言いかれないとは思うが、如何？

『人の命は無常で、吐く息は吸い込む息を待つ間もないくらいであり、風が吹く前の朝露のように、いつ散つてしまふかわからぬくらいはかないものです。賢い人もそう

でない人も、老人も若い人も、すべてがいつ死を迎えるか決まりのないことです。ならばまず自身の最期のことをわきまえて、その後に他のことを考へるべきです。（妙法尼御前御返事）』とは、日蓮聖人の遺された言葉。

確かに私たち全員が百%の死亡率のなかで毎日を過ごしているのに、健康なときは考へないで過ごしている。それがどこか体の具合が悪くなったり、身近な人の病気や死に接して急に考え始める。健康なときは考えたり家族と話したりすることが、また日常の充実に繋がり、いざというときに早く受け入れられる、心を持てるわけだ。

瀬戸内寂聴さんは『出家して以来は、いつのまにか、信は任せなりという考え方方が身についてしまって、じたばたするより、お任せしようと思ひ込み、死ぬまで元氣でいられるようとに願つてゐるだけである。・・・私は出家とは生きながら死ぬことだと考へてゐる。私はもはや死者なのだから死の準備は不要なのである。』出家者（僧侶）はこうあらねばならないと、自分自身に言い聞かせた次第。

ここまで書いて、Bさんの四十九日忌の法要の席でさらにな後日談を聞いた。葬儀の後、幼いころからBさんを可愛がっていた、今はアメリカに暮らす事情を知らない叔父さんがついた、今はアメリカに暮らす事情を知らない叔父さんがついた、今はアメリカに暮らす事情を知らない叔父さんがついた。『O O (Bさん)はアメリカまで挨拶に行つたんだねえ』と、誰かが言つた。しみじみとした、い四十九日忌だつた。

漁師生活六十年

五カ浜 遠藤

一敏さん（七十五才）
マサ子さん（七十一才）



止されてお寺への行き来も不自由しながら勤めてくれた。

十五才で学校を終えると父親を手伝つて漁師になった。父親は長年茨城の海で船頭を勤めたベテラン漁師で、名人と言われた人だった。でも漁の方法も網の作り方も「自分で見て覚えろ」と教えてはくれなかつた。母親も「毒消し売り」の出稼ぎで村を離れ、幼い兄弟四人は親戚の家で育てられた。当時村の生活は厳しく、どこの家でも似たようだつたといふ。マサ子さんの生家も生計が成り立たず、村を離れて茨城で父は漁師、母も「毒消し売り」の家だつた。せめて郷里にと、一敏さんに嫁がされた。

今年は世話人の改選期にあたり、遠藤一敏さんは定年で引退される。ところが五カ浜は過疎の村で、高齢者ばかりのため後継者がいない。一敏さんも八年ほど前、前任者が病気のために引き受けた。運転免許を持たないうえ、バス路線が廃



は山仕事に畠仕事、魚が獲れれば朝まで網からはずす作業と、文字通り寝る時間がなかつた。水にも不自由する土地で、当時は山の沢水を竹筒で引いてきたが、その分配で近所と騒動にもなつた。年寄りを抱えない家では村を離れた人も多い、厳しい土地だつた。

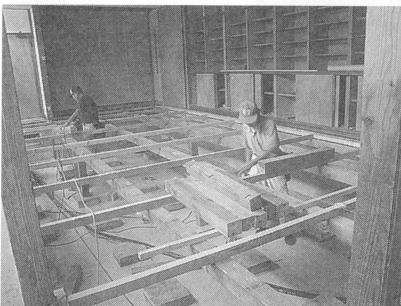
近年機械化した大型船による乱獲のせいか、漁獲量もめつきり減つた。「歳度もあるし、あと何年やれるかなあ」と言ふ。二人の子供は独立して、「夫婦一人暮らし。晚酌と明日の漁を楽しみに過ごす」。一人任せだと。マサ子さんは花を絶やすことなく、お参りを欠かさない。身延山参りも数年前に参加。「今度は父ちゃんに行つてもらおう」と。

次の世話人に現在新潟市内でひとりで暮らし、毎日のように村の生家に来て畠仕事をする、元気な六十台の女性を思ついた。早速一敏さんが「元気なうちは俺も手伝うから、後を頼むよ。お寺のことをするのは皆も助かるから、きつといいことがあるよ」と、いつもの笑顔でお願いし、すんなり引き受けた。信頼厚い遠藤さん夫婦の人柄なればこそだ。

お盆法要他

台所改修工事

お蔭様で工事が順調に進み、七月中旬には完成予定です。床下の換気が不十分だったせいで、床板と土台の痛みが予想以上でした。前回ご報告の通り予定額以上にご協力いただきましたので、設計を一部変更して、ドイツ製のシステムキッチンを入れたり、外部の修復工事を追加しました。本来なら高価なシステムキッチンですが、設計者のつてで約四割引きになつており、とても丈夫で使いやすいものになります。お出かけの際は台所



台所改修工事 床張り作業

お蔭様で工事が順調に進み、七月中旬には完成予定です。床下の換気が不十分だったせいで、床板と土台の痛みが予想以上でした。前回ご報告の通り予定額以上にご協力いただきましたので、設計を一部変更して、ドイツ製のシステムキッチンを入れたり、外部の修復工事を追加しました。本来なら高価なシステムキッチンですが、設計者のつてで約四割引きになつており、とても丈夫で使いやすいものになります。お出かけの際は台所

ものぞいてください。ご協力に対し改めて御礼申し上げます。

総収入1155万円。総支出1155万円（内訳 大工工事535、5万円、キッチンセット360万円、設計管理費80万円、電話入替工事費52、5万円、予備費127万円。全て税込み）

定例役員会議

妙光寺は現在二十四名の世話人の合議で運営されています。この中から選出された総代三名と住職が執行部となつて、実務を担当します。世話人会議は通常年一回、臨時にはその都度開催します。任期は三年で再任はできますが、満七十五才で定年となり、三期以上勤められた方は顧問に就任します。

今年が改選期に当たり六名が交代されま

看板を設置しました

「妙光寺案内」 境内案内図と妙光寺の歴史、建物の説明をするために、山門入口の山側に設置しました。初めての方



定例役員会議

したので、会議終了後慰労を行いました。

長い方は五十年以上勤められましたので、数々の思い出話とともに

に長年のご苦労を慰労しました。心から感謝申し上げます。

会議はこれまでの石田誠太郎さんに代わり内藤昭栄さんが新議長に就任し、妙光寺の決算報告と予算案審議、台所改修工事、住職候補公募等々を審議し承認いたきました。また会計監査に高橋英一さん、岡崎隆さんが新任されました。

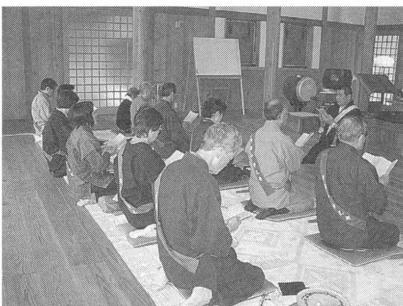
には縁起（えんぎ）といつて、お寺の来歴を説明するパンフレット（ト）を玄関に用意してあります。ですが、有料です。そこで誰でも見られる案内用に、新たに設置しました。

【事故注意】

参詣者の建物内で寺側の過



看板設置



本堂でのお経練習

昼食後解散の一泊二日。お経練習、作法実習、講義が中心です。初対面の方ばかり十数名が過ごしますが、お互いにすつ

「入口、駐車場案内」勝手口がありますが、宅配便やプロパンガス等の搬入車、作業用車両、また体の不自由な方の車が失による怪我等に備え、最小限度の保険に加入しています。しかし駐車場での事故、境内での子供の事故までは対応できないので、保険会社からの助言で設置しました。

かり打ち解けて、特に二回目の初級コースでは顔なじみになりますからとても楽しい雰囲気でした。作務といつて岩屋の掃除作業をしていただき、そこで翌日早朝のまだ薄暗い中でのお勤めがとても清々しく感じられました。

参籠修行

お寺に籠もって（宿泊）お参りすることを参籠といい、昔はどこのお寺でも年に数回はありました。これを復活して、皆さんに集中的にお経を身に付けていただこうと昨年から始め、今季は初心者の入門コースと、二回目の初級コースの二回開きました。

いずれも一日目の昼過ぎ集合、二日目

昼食後解散の一泊二日。お

「参加者の感想の一部」

「日蓮宗に触れることができた。太鼓に違和感を持っていたが、楽しく叩いている自分がいた。明るいイメージの建物でした。岩穴でのお勤めは感動しました。全體の進行は疲れを感じさせないよう配慮されていてよかったです。もつと読経の時間が欲しかった。修行なのだから、もう少しハードでもよかったです」

「ジグソーパズルが少しづつ繋がって

で三十万円とします。

いくように、講義が解りやすくとてもよかったです。機会をいただきありがとうございました

「昨年からの念願でしたので、行うこ

と聞くことすべてが新鮮で、いい勉強になりました。一緒に修行された方々の生きた歴史が感じられるいいお話しも良かったです。二日目の五月晴れ最高！でした。食事も心のこもった品々大変美味しかった」

墓地と「杜の安穏」の増設

従来の墓地が満杯となっていましたが、新規に入檀し墓を建てたいとの希望が二軒続きました。そこで墓地の東側の大型墓地に敷地があるので、大型墓地の受付を止めて残りの土地を新規区画として造成しました。

全四十七区画、同一規格で間口一、五

m、奥行き一、八mの二、七²m。永代使用料は新規入檀の方四十万円、従来の檀徒は三十五万円です。ただし山側の墓地から移転する場合、平成十九年四月末ま

これで境内の墓地がなくなります。今後この墓地の収入金を貯えて、将来に山側の墓地の区画整理をする資金に充てる方針です。ことに山側の墓地は墓石の並びが不統一なうえ、承継者のいない墓石も多数あつてその管理が極めて困難です。現在除草剤による管理を専門業者に委託していますが、枯れ草が見苦しく、土がボロボロになります。さりとて機械による草刈もできず、人手に頼ることも難しいのです。区画整理して管理が楽な方策を取るのがいいのですが……。

「杜の安穏」もお蔭様で好評で、今回十基八十区画を増設工事中です。七月末に完成しますが、申し込みは受付しています。敷地上これで限界です。

こうした増設に伴ない、水屋を増やします。現在の水屋から道路沿い東手に約五十mの位置に、同じ形式で建てます。特に安穏廟の方には、これまでお盆、おまつ点を改善します。

神宮寺へ

いま日本で一番元気のいいお坊さんは、松本市神宮寺の高橋卓志住職だと思います。その活躍ぶりは一月のNHK教

マスコミ報道多数

別ページで報告の次期住職候補公募の件で、多くのマスコミに取り上げられました。毎日新聞では社会面、読売新聞では「顔」の欄、朝日新聞では「天声人語」。大阪毎日放送ラジオは電話インタビューニング、ローカルの新潟テレビ21では二回、テレビ朝日系列で「スーパーもう夕方のニュースの特集で放送。その結果問い合わせが六十件を超える、ホームページも最高一日七百件のアクセスがありました。ただ住職候補の問い合わせで多かつたのが、五十才前後の方。次が若い人も本人でなく、親からというのがかなりありました。世相を感じさせられる気がします。

皆様にお知らせしたNHKラジオ「宗教の時間」は、住職の母校立正大学の前学長の推薦で、依頼をいただいたものです。

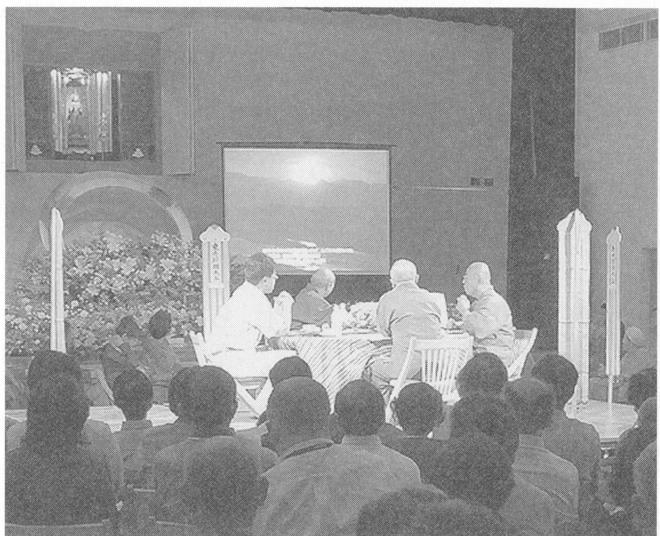
岐に渡りました。会場には三百人近い聴衆が集まり、休憩無しの三時間熱心に聞いていました。

次回お知らせしますが、十月二十九日（日）妙光寺の行事に高橋住職のお話しをお願いしております。ご期待ください。

お盆墓参りの日取り

妙光寺では昔からお盆のお墓参りは八月一日です。昔は皆さん二時間前後かかる道を歩いて来たので、十三日夕方の墓参りは無理だったせいだと思われます。しかし、十三日か日曜でないと仕事が休みにくいという時代になり、車社会でもあるからなんとかならないかとの声があります。

そこで第一土曜の夕方とか、日曜にすることを検討しています。その際の問題点等を洗い出し、今以上に好都合となるよう準備して実施に移しますので、いま少し時間をください。



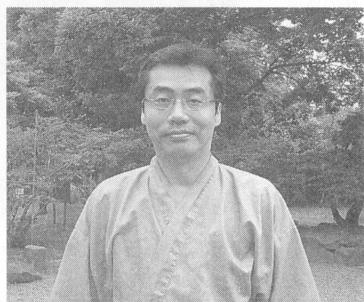
できないの

で、専従職員として坂口靖彦さんが受付と事務を担当

しています。

自宅は神奈川県で、月のうち二十日間ほどを妙光寺に住み込み、受付と電話応対、事務処理、そして研修生のお世話をします。

本業は東京で人材派遣業を営んでおり、妙光寺とは業務委託契約です。研修生が軌道に乗るまでの期間限定です。元々は大手ホテル業、旅行業にいたったそうで、人当たりがソフトです。気軽に声をかけてください。



寺務担当 坂口さん

あの番組に出た高橋住職に、大阪の秋田住職と妙光寺小川住職、インタビューの上田紀行東工大助教授が、五月二十日神宮寺に集合し、生討論をやりました。寺のあり方、葬式の現状、仏教教団の問題点、寺の後継者問題、そして人生の終末期における僧侶の関わり等々話題は多

寺務担当

住職候補公募と育成が現状の人手では

住職候補研修生決定

一般から公募した妙光寺の次期住職候補としての研修生が決まりました。問い合わせは五十件を超えたが、実際の応募は四名でした。書類選考のうえ、面接は一次が坂口寺務担当、二次が総代三名、三次が住職夫妻です。その結果。左記の二名を決定するに至りました。

矢部

智之（やべともゆき）二十八才、東京都出身。私立大学経営学部卒。大手運送会社内勤リーダー在職中。以前から人を救う仕事に就きたかった。

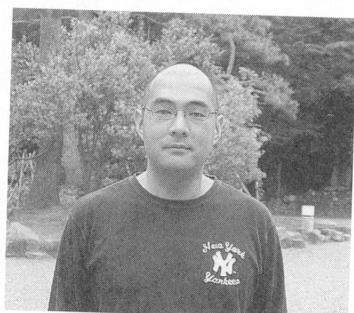
大野雄一郎（おおのゆういちろう）二十七才、千葉県出身。私立大学芸術学部卒。制作プロダクション専属イラストレーター。東洋思想、仏教の世界に強く興味を抱いている。

七月中旬から三ヶ月間、研修生として妙光寺での日常を体験したのち、双方の意思を再確認します。そのうえで住職候補生として、三年間の本格的な修行に入ります。この三年間では、知識と技術の習得、資格の習得、見聞を広め資質を高める、の三点を骨子にします。最終的に住職はひとりですが、研修生は二名を想定していたので、引き続き募集を継続します。

夏の間はお盆等で皆さんも接することが多いと思います。この期間はまだ髪の毛は短くせず、作務衣か作業中はTシャツに名札を着けます。○○君、○○さんと、親しく声を掛けてあげてください。



大野さん



矢部さん

ご案内

一年会費

個々に郵送または地区の世話人をご案内しますが、今年度の会費をお願いします。前年度未納がある方はその分が計算されています。ご不明の点は遠慮なくお問い合わせください。

郵送の方で合併、転居等で住所が変更になった場合は、振込用紙に記入してお知らせ願います。また郵便局で振替送金せず、八月一日等お墓参りの際に持参されても結構ですが、同封の振替用紙を必ずお持ちください。

お墓参りと施餓鬼塔婆

妙光寺では八月一日がお盆のお墓参りです。朝六時から十時まで、個々の墓前でのお経を受け付けています。安穩廟も同様ですので、待機している僧侶（七名います）どなたにでも依頼してください。

十一時から本堂で、施餓鬼法要と新盆の精霊の供養を行います。施餓鬼塔婆とは、お釈迦様の徳を偲んで建てた塔（卒塔婆・そとうば）にちなみ、先祖や故人の供養のため六尺（一八〇センチ）の板に、戒名や俗名または先祖代々と書き、本堂に立てて法要中に読み上げするものです。

特に新盆の精霊は、戒名を書いた位牌を本堂の施餓鬼檀に安置し、供養します。縁者の方は、塔婆供養並びにお参りなさることをお奨めします。

生前に戒名を

戒名は仏様の弟子になつた証としてつけるもので、生前につけるのが本来です。戒名をいただいて、その後の自分の生きかたを戒めると言う意味で戒名といいます。日蓮宗では法のいみ名という意味で法号といいます。

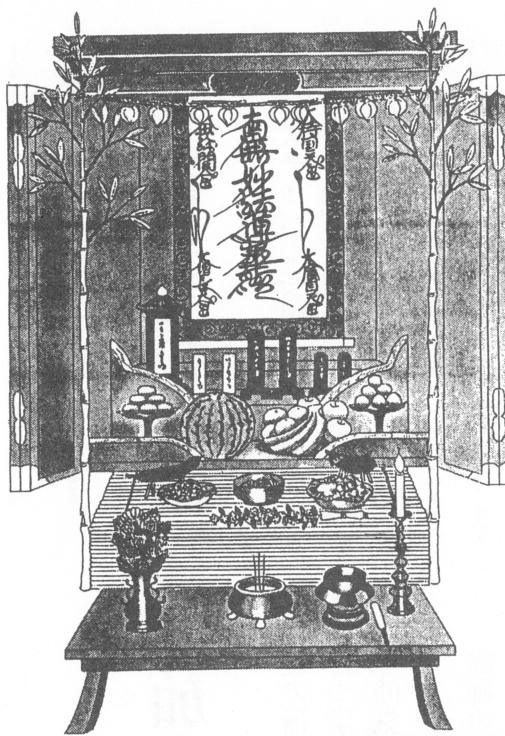
菩提寺の住職が仏様に代わってお授けするものですから、その寺の檀信徒にしかつけしません。代々続かなくても、またご夫婦のひとりだけでも、個人につけるものですから問題ありません。これまでの四回で七十名余りの方が受けられました。希望の文字をお聞きします。費用は三万円で、戒名を金糸で刺繡した略式袈裟と、数珠を記念に差し上げます。

次号で詳しくお知らせしますが、ご希望の方、もっと詳しく知りたい方、安穩会員を含めて遠慮なくお問い合わせください。今年の期日は十月二十九日（日）です。



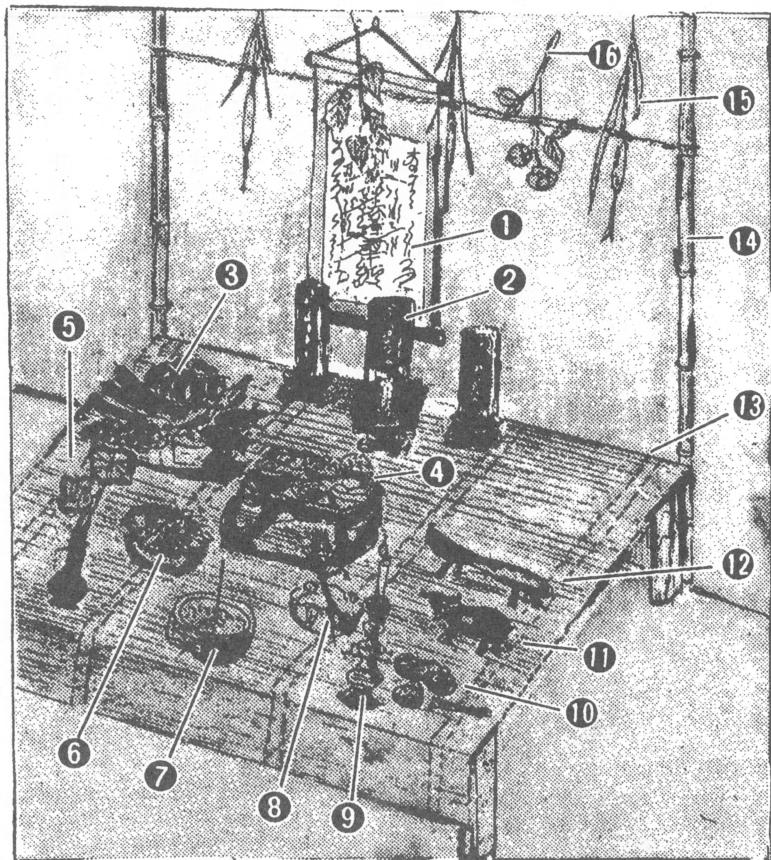
お墓参りと施餓鬼塔婆





お 盆

精霊棚の お飾りのしかた



- ①曼茶羅②お位牌③供物④靈膳⑤供花⑥水の子⑦香炉⑧瀧水盤⑨灯明
⑩無縫だな⑪ナス(牛)⑫キュウリ(馬)⑬まこも⑭青竹⑮ガマ⑯ほおづき

フェスティバル安穩にご参加ください



フェスティバル安穩のご案内を同封しました。「参加したといつつかなかか機会がない」という声をよく耳にします。そこで今年は決断していただこうと、パンフレットの趣向を変えました。また

一部に「安穩会員のためなんじょ」という檀信徒の声があるので、内容を詳しく紹介し、妙光寺全体の行事であることをお知らせしました。

今回は四十台からの会員と檀徒のスタッフ十名が、昨年の反省に基いて一月から計画し準備してきました。本番では前日の準備から当日の受付、進行、裏方と、役割分担をして皆さんをお待ちします。さらに当日は地元や県外から五十人近い応援スタッフが入ります。この方は角田浜檀徒、巻の音楽仲間、東京、大阪、九州の市民グループ、葬儀学校の

講師の町田宗鳳先生は、六月に住職が打合せに広島に伺いました。お会いするのは二度目でしたが、ユニークな経歴同様に若々しく気さくなお人柄、坊さんっぽくない学者っぽくないお話しは破天荒です。

法要は聲明が中心で、昨年より人数を増やしました。国立劇場、ヨーロッパの教会で定期公演し、一昨年は新潟市リュートピアでも公演した実力派。劇場や教会でするのは公演ですが、お寺では法要です。その違いはご自身の目と耳でどうぞ。



講演の会場が昨年は満杯だったので、

今年は日除けテントを張った院庭を使います。広々としてゆったりできると思います。好評だった喫茶コーナーは、グッズと値段を下げて大銀杏の木の下に開店します。今年も美味しいと評判の手作りケイキがあります。交流パーティーでの音樂は、心に滲みる故郷の歌という感じで、どなたでも楽しめます。ぜひお出かけください。

年会費の振込用紙を同封しました。郵便局からの送金か、妙光寺にお持ちになつても結構です。近況をお知らせください。また八月一日お盆参りの施餓鬼塔婆、フェスティバル安穩参加、大口ウソク献灯の申し込みもこちらでできます。

「家庭？へのあこがれ」

小川 なごむ

昨夜はワールドカップのクロアチアと日本の試合だったのに、つい眠ってしましました。（しまった！！です）

頃は本当に夜が弱くなつて、その分朝は5時といえば眼が覚めてしまします。頑張つて夜遅くまで起きいていても、同じ時間に眼が覚めてしまうのはいつたいどういうこと？ですかね。

本を読んだり、手芸をしたり、したことはたくさんあるのに最近は老眼が始まつたようで、朝は眼がはつきりせず気分が乗りません。でも今、そんな毎日がちょっと楽しいのです。

おかげさまでお寺の台所の工事が進んでいますが、その間でも食事をしないわけにはいきませんから、居間の脇の小さな台所でご飯を作っています。二十年のあいだ、子どもの洋服置き場

と洗面所だったところが本来の台所として復活したわけです。

そこには、（これも使つたことがないのですが）出入り口がついていてその扉を開けると、裏の神社の参道なのです。

起きてまずやかんをコンロにかけたて、その扉を開け放すと朝の湿つた空氣と一面の緑、鳥の鳴き声が入ってきます。コーヒーを飲みながらしばしば

いことはたくさんあるのに最近は老眼が始まつたようで、朝は眼がはつきりせず気分が乗りません。でも今、そんな毎日がちょっと楽しいのです。

しばらくぶりに実家で過ごしていた

ころのようない朝の時間は泣きたくなるほど懐かしい気がしました。「家庭つて、こんなものだつたよな」みたい

な・・・。そして料理をしながらアイ

ロンをかけたり、家計簿をつけたり、



食卓の上には大好きな飴玉やおせんべいを並べてみたり、食事のかたづけをしながら寝転んでみたりと、一般的の家庭ならば当たり前の、ささやかな暮らしの朝のひとこまが嬉しくて仕方がないのです。

あと半月で待望の台所が完成します。家庭から寺庭に戻り、いつそう精進しなくてはとも思いますが、復帰できるか心配です。でも今度は研修生も住み込む予定ですし、新しい台所は休む暇なく使われるでしょう。夏にはみなさん見学に来てくださいね。

行事案内

年会費納入のお願い

年会費と施餓鬼塔婆供養のご案内を、近隣は地区世話人が直接伺い、遠方の方と安穏会員は郵送します。郵送の方は八月一日等のお参りのときに直接持参されても結構です。その際も同封の振替用紙を必ずお持ちください。塔婆供養の申込書は、当日混雑しますので事前にお送り願います。

七月初旬 関東地区お盆

関東地区の檀信徒宅に、住職が予め日時をご連絡のうえでお伺いします。

八月一日(火) お盆墓参り 施餓鬼法要

朝六時～午前十時まで、墓地にてお墓のお経を受付します。十時半～安穏廟法要。
十一時～本堂で施餓鬼法要。十二時～お斎。午後一時～説教

八月十三日～十六日 お盆棚経

例年通りに住職と鎌田、お手伝いの成川上人が手分けして全ての檀信徒宅に伺います。

予定を知りたい方、留守になるお宅は八月十日以降に電話ください。

旧新潟市内と県内遠方の方は十日前後に、日時を連絡のうえで伺います。

八月十九日(土) 岩屋七面宮祭礼

があります。

午前十時半～本堂にて法要、お加持。その後岩屋に移動して法要。お昼に赤飯供養

八月二十六日(土) 第十七回フェスティバル安穏

参加自由。詳しくは案内パンフレットをご覧下さい。

九月二十三日(祭日) 秋の彼岸中日法要

午前十時半～安穏廟法要。十一時～彼岸会法要。昼～お斎。午後一時～住職説教



いよいよ住職候補生の研修が始まります。檀信徒、安穏会員の皆さんが楽しみにしてくださるのが何よりです。また取材依頼も大変に多く、関心を持つ記者や担当者も二十代と若いのに驚きます。先の見えにくい、本来の姿を見失った、そんな時代だからこそ若い世代が関心を持つてくれたなら、嬉しいのですが。

一般に珍しく特別なことのように言われますが、寺は世襲でない歴史の方がはあるかに長く、世襲化した現在の姿こそ問題なのです。そんななか、甲府市内日蓮宗寺院の奥さんの会十二人が、話を聞くたいと日帰りで研修に来られました。

(小川)

あ
と
が
き

